

人と環境に優しいクリーンな米作り

～水稲種子温湯消毒～

常盤基幹グリーンセンターは3月21日から28日、水稲種子温湯消毒の受託作業を行いました。令和3年は生産者213人が申込み、「つがるロマン」や「青天の霹靂」などの種子約32トンの消毒作業を1日に約4トン行いました。

温湯消毒は、農薬を使わずに温湯で殺菌する方法。苗立枯細菌病やもみ枯細菌病、いもち病などに対し農薬を使った場合と同等、またはそれ以上の防除効果が期待できます。

消毒作業は、JA職員や作業員らによる手作業で行いました。JA職員ら8人が4袋ずつ持ち作業。発芽率の低下防止や、病害の防除効果を発揮させるため、浸漬温度と処理時間の管理を徹底して作業を行いました。

作業を行った同グリーンセンターの佐々木篤宮農指導係長は「温湯消毒は、薬剤を使用しないため環境だけではなく人にも優しい。SDGsにも合致した取組であるため、申込者は今後ますます増える」と話しました。また、4月7日には高密度播種栽培用の消毒作業が行われました。



水稲種子の温湯消毒を行う職員ら

トマト定植作業温度管理注意

～尾上トマト部会栽培講習会～

尾上トマト部会は3月17日、尾上基幹支店で定植時の栽培講習会を開きました。部会員約20人が参加し、定植時の作業と栽培管理を学びました。

中南農業普及振興室の長谷川修主幹が講師を務め、定植作業の手順と施用時の注意点、定植後の管理について説明。「定植時は、地温を適正温度の15℃以上にし、萎れ防止のため施肥をしっかりと行う。定植後は、樹勢低下を防ぐためかん水やハウスの開閉で温度を調整して管理を徹底してほしい」と呼びかけました。また、肥料不足や日照不足が招く症状について、ほ場で撮影された写真を使って説明しました。



定植時の作業と栽培管理を学ぶ部会員

適切な管理方法を促す

～水稲育苗・青天の霹靂の栽培講習会～

尾上基幹グリーンセンターは3月11日、尾上基幹支店で令和3年産水稲育苗講習会と青天の霹靂の栽培講習会を開き、水稲生産者11人が参加しました。

講師を務めた同グリーンセンターの山口博之宮農指導係長は、まっしぐらの育苗作業について「水稲育苗は、低温による失敗はほとんどないが、高温による失敗が大半を占めている。育苗箱内の土の温度・乾燥状況を確認し、換気とかん水に留意する」と説明。また青天の霹靂について、玄米タンパク質含有率が高くないよう栽培に適した土壌条件のほ場を選び、適切な肥培管理の徹底を呼び掛けました。



今後の水稲栽培を確認する生産者